

【優秀賞】

団体名	延岡商工会議所及び延岡市
活動の内容（概要）	<p>延岡市キャリア教育支援センターでは、産業界と地域社会のすべての大人が子供たちに関わって「働く喜びと苦勞」を市内の小中高校生に語り伝える運動に取り組んでいる。この授業を「よのなか教室」と称し、社会人講師を「よのなか先生」と称している。</p> <p>よのなか先生には幅広い分野から既に200余名が登録し、よのなか教室はコロナ禍にありながらも令和2年度には約70回実施し、延べ8,700人の小中高校生が参加した。なお、平成29年度から活動を開始し、延べ218回、21,071人の参加となっている。</p>

受賞理由

- 「よのなか教室」というわかりやすいネーミングで、多くの学校の参加につなげている。よのなか先生の登録を促進して、データベース化を図るなどの、仕組み化への取り組みも効果的。挑戦している大人の姿は何よりの教材であろう。
 - 商工会議所にキャリア教育支援センターが設置されているなど、しっかりとした組織作りが行われ、「キャリア教育は子供たちの未来づくり」という理念の共有のもと、質の高い継続的な取組が行われている。社会人講話など座学を中心とした取組の改善を図ろうとしていることが評価できる。特に、中学校の課題探究学習や高校の探究学習にメンターとしてかかわる仕組みは非常に興味深い。ゲスト講師のような単発の関わりとの効果の違いが明らかになると良い。いずれ、教師の自主勉強会の開催、市職員の「よのなか先生」全員登録など、社会人講師として学校での学びを支える大人の本気度の高さが素晴らしい。
 - 「延岡の大人はみな子供たちの先生」として、地域で世の中先生を募集・登録するなど、地域が一体となって、市内の小中高校のキャリア教育を推進・実施している。
 - 「よのなか教室」の講師である「よのなか先生」の登録・確保も大変だと拝察される。これからも「よのなか教室」のさらなる充実を期待している。
 - 延岡商工会議所に設置された「延岡市キャリア教育支援センター」を中核におき、延岡市立小学校・中学校と延岡地域の県立高等学校を幅広く対象とした総合的な取組である。とりわけ、継続的な「学校訪問」により学校現場でのニーズを捉え、民間企業出身と教職員OBのコーディネーターが、カリキュラムづくりから一緒に議論検討し取り組んでいる点が高く評価される。
- プログラムの中心となるのは、産業界と地域社会のすべての大人が子供たちに関わって「働く喜びと苦勞」を市内の小中高校生に語り伝える「よのなか教室」の活発な取組であるが、この他にも、学校のニーズに即したメンターによる指導・支援、月刊「よのなか教室通信」の発行、年度ごとの運営事業実績報告書など優れた取組が見られる。
- 校種も含め地域全域での良い取り組み事例である。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校，教育委員会等の機関や団体）】

延岡市立小学校 27校 中学校 16校 延岡地区県立高等学校 7校
延岡市教育委員会 宮崎県教育委員会

【行政や地域・社会，産業界等】

延岡市役所（工業振興課、人材政策・移住定住推進室）、延岡市PTA 連絡協議会、延岡商工会議所 女性会、延岡商工会議所青年部、延岡市区長連絡協議会、延岡地区建設業協会、宮崎県工業会、延岡市商店会連合会、農協、社協、ハローワーク、みやざき若者サポートステーション、延岡鉄工団地協同組合

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成29年～ 【継続年数】5年

延岡商工会議所では、地方創生を実現するには、「この地域で働き・暮らす魅力」を子供たちに伝え、地域の将来を担う人財を育成することが喫緊かつ最重要な課題であると位置づけていた。

また、延岡市では平成28年度からスタートした「第3次延岡市工業振興ビジョン」の中で、「地域の大人はみな子供たちの先生」運動を起こすことを計画していた。

この両者の思いと構想が、「延岡市キャリア教育支援センター」を延岡商工会議所に設置することに結実し、コーディネーター3名を配置した上で、企業・地域と学校とを結びながら「子供たちの未来づくり」（キャリア教育）に取り組んで5年目を迎えている。

「協力性」についての具体的な取組，工夫している点など

産学官民の広範な理解と協力を得るために、平成29年度より「延岡市キャリア教育推進懇話会」を毎年開催している。委員には、工業会、農業協同組合、商店会、青年会議所などの産業界に加えて、市役所、市教委、PTA、地区区長会、社会福祉協議会、小中高校長会などの地域と行政及び学校の代表に就任していただき、基本方針の議論検討や実施結果の総括を行っている。

キャリア教育支援センターの拠点を延岡商工会議所に設置したことにより、企業経営者の方々にとっても、次世代を担う子供たちを育てることが「自分事」と受けとめられるようになった。またこのセンターを維持するための資金については、延岡市の補助に加え、商工会議所傘下の数社の企業から賛助金をご寄付いただくことができ、計画通りの運営が可能になった。

平成30年11月に「産業人財の確保・育成を考える県北フォーラム」を開催し、地元企業経営者2名と中学教師からの事例発表と、後半は沖縄の翁長有希さんによる講演会を実施した。産業界・教育界から多くの方々に参加いただき貴重な産学連携の場になった。教師を対象にキャリア教育に関する「自主勉強会」を、平成29年6月からスタートし、この4年間で30回、延べ参加者は255名に及んでいる。これからのキャリア教育の構想、困りごとなどが意見交換できる教師間ならびにコーディネーターとの間の貴重な場となっている。



<延岡小学校「よのなか教室」の様子>

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

キャリア教育支援センターがスタートして1、2年の間は、先生方からのあらゆる要請に応えながら、学校への積極的な提案も行ってきた。3年を経た頃から、供給（よのなか先生の登録）は確保できるようになり、よのなか先生の登録は200名を超え、多様な社会人を揃えられた。一方で、需要（先生方からのオファー）が継続して増えないため、すべての学校を訪問し校長、教務主任、担当先生に困りごとを聞き、率直な意見交換を毎年継続している。全50校（小27、中16、高7）の内、当初の2年間は約半分程度であったが、3年目には全小学校27校、4年目には全小中学校43校を訪問した。その結果、各学校の置かれた状況や課題も把握でき、先生方の要望に応じた支援も生まれるようになった。この学校訪問は学校の管理職からも認知されてきているので、今後とも継承し継続していくことにしている。

「よのなか教室通信」を毎月発行して、すべての小中高校の教職員に届け、平成29年6月に創刊以来、令和3年8月に4年間で通算40号となる。「よのなか教室」の様子を伝えることに加え、全校長にメッセージを順に寄せてもらい、さらに「よのなか先生」にも寄稿してもらうことで、先生方に貴重な情報が提供できている。

また、支援センターのホームページも立ち上げ、よのなか教室のデータベース化にも着手した。今後はPRを徹底し、閲覧と活用の促進を図ることにしている。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

継続的な「学校訪問」により、先生方の学校現場でのニーズを捉え、民間企業出身と教職員OBのコーディネーターが、カリキュラムづくりから一緒に議論検討し取り組んでいる。これまでの社会人講話は座学中心であったため、子供たちに深く考えさせ行動変容を実現することが難しかった。そこで子供たち自身に少しでも体験を味わわせる授業構築に取り組んだ。具体的には、「夢を育む講演会」として講話の後、講師3名と生徒たちとのパネルディスカッションを実施。また、保護者に講話してもらい、その後に子供たちと意見交換。大人と1対1でこれまでの喜びや苦労について対話。さらに、中学3年生でPBL（課題解決型学習）に挑戦・・・等、先生方の様々なアイデアを基に、アウトプット型に変えていく挑戦を重ねてきた。

延岡市では市教委が様々な事業を積み重ねてきている。「ふるさと教育推進事業」として地域の大人が子供たちに伝えたいことを講話する授業が11年間、「講師派遣事業」として企業の研究者が学校に向いて語る授業が23年間、「学習支援（中1の数学）」を行う企業OB等によるボランティア「はげまし隊」活動が13年間、市内全ての中学校（一部小学校でも）で悉皆として継続して実施されてきている。これらは他市町では願っても得られない財産であり、この共通の土台の上に、キャリア教育として先生方の工夫とアイデアによる授業が積み上げられれば、見事なピラミッドが形成できることを目指している。



<旭中学校「ビデオメッセージ」講師による講話>

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

令和元年度、2年度には宮崎大学教育学部が主催する「ひむか人財育成セミナー」が延岡高校でも開催され、キャリア教育支援センターと連携して民間・行政の若手に講師を依頼し、働く意義と宮崎

で働き・暮らす魅力と課題を語ってもらった。これについては、オンラインでも配信されたので、延岡市だけでなく県内の多くの高校生が参加した。このことにより地元大学との連携も生まれている。

コロナ禍で社会人が学校に行けなくなったり、子供たちが職場体験などで企業訪問ができなくなったりしたが、「学びを止めない！コロナ禍でのキャリア教育を実現したい！」と地元ケーブルテレビの全面的な協力を得て、地域の働く大人からのビデオメッセージを作製した。約7分の動画が、既に9本完成しており中学校の授業での活用が始まっている。取材と編集にはプロとしての専門力が必要であり、子供たちの未来づくりにかける思いが一致して、地元テレビ局との意義あるコラボレーションとなった。

延岡市では市職員全員を「よのなか先生」に登録する制度をスタートし、市内小中高校に社会人講師として数多くの職員を派遣している。特に、高校（普通科）及び中学校の「総合的な学習（探究）の時間」において地域課題等を探究学習する際に、社会人をメンターとして、月に1回程度、半年間継続して派遣している。このメンターに市職員を計画的に派遣しており、令和元年度には14名、令和2年度には11名、令和3年度には10名を派遣している。このように、行政と産業界とが密接に連携してキャリア教育に取り組み、学校ならびに市教委を支えている実績は他ではあまり見られないものであり、とりわけ教育委員会以外の市長部局である行政が、キャリア教育に積極的に取り組んでいることは高く評価されるべきものである。

学校現場の評価・感想・コメント

キャリア教育に関しては、「子どもたちに夢をもってほしい、見つけてほしい」と思っている。そのためには、夢や目標に向かって今何をすべきなのかを見つける機会が必要であり、キャリア教育の充実、学校経営の重要な柱だととらえている。いろいろな人の話を聞き、人との出会いの場を与えることが夢に向かわせる契機になる。また、その機会を与えることが教師の使命になる。（市内N中学校 校長）

子ども達は「夢や可能性」を無限に持っている。「将来こんな職業に就きたい」、「こんな生き方がしたい」という目標を持ち、自分らしい生き方に近づける子どもを育てたい。そのためには、私がキャリア教育の視点を持った教育を行うことが、子ども達の持つ夢を現実に導く一つの手助けになると考える。（市内T小学校 校長）

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

- 人口減少による地域産業の担い手不足は、一段と厳しい状況にあり、採用直前の高校生だけを相手にするのではなく、小中学生の時から「この地域で働き・暮らす魅力」を語り伝えていく必要があると考え行動する経営者が間違いなく増えてきている。業務多忙な折であるにもかかわらず、学校へ出向いての講話に快く協力していただける経営者が多くなったと感じている。
- 様々な機関・団体からキャリア教育支援センターに、人財育成に関する講演依頼があり積極的に協力してきた。いくつかを例示すると、日本政策金融公庫（中小企業懇話会・東北地区異業種交流会）、宮崎労働基準協会延岡支部（安全衛生推進大会）、延岡商工会議所女性会（例会）、延岡・日向・高千穂地区建設業協会（研修会）。
- 延岡高校が令和2年度からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けたのを機に、自然科学をテーマとした探究学習に社会人メンターを派遣している。キャリア教育支援センターとして全面的に支援をし、令和3年度には、MS（メディアサイエンス）科1年に5名、MS科2年に4名、普通科2年に6名を人選し派遣している。これについては、年に2回開催される運営指導委員会においても大学の専門委員から高い評価をいただいた。